

Title	楠原 偕子教授略歴および研究業績
Sub Title	Professor Tomoko Kusuhara : a brief chronology
Author	楠原, 偕子(Kusuhara, Tomoko)
Publisher	慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会
Publication year	2001
Jtitle	慶應義塾大学日吉紀要. 英語英米文学 No.37 (2001. 3) ,p.209- 216
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10030060-20000930-0209

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

楠原偕子教授 略歴および研究業績

略年譜

- 1935年 4月 東京都中野区千光前町14番地に生まれる
- 1942年 4月～48年 3月 小学校（国民学校）〈神奈川県逗子市，静岡県沼津市，山梨県八田村，徳島県大津村，京都市〉
- 1948年 3月 同志社女子中学校 入学
- 1951年 4月 同上 卒業
- 1951年 4月 京都府立桃山高等学校 入学
- 1954年 3月 同上 卒業
- 1954年 4月 同志社大学文学部英文科 入学
- 1958年 3月 同上 卒業
- 1958年 4月 同志社大学大学院文学研究科 入学
- 1959年 4月～60年 3月 同志社女子中学・高等学校 嘱託講師（英語）
- 1960年 4月～61年 3月 石原産業海外派遣員養成講座 嘱託講師（英語）
- 1961年 4月～62年 3月 京都大学医学部付属看護学校 嘱託講師（英語）
- 1962年 3月 同志社大学大学院文学研究科 退学
- 1962年 4月～63年12月 劇団俳優座舞台部
- 1964年 1月～67年 6月 株式会社白水社「新劇」編集部 嘱託
- 1967年 9月 Graduate School of Arts and Science (drama), New York University 入学 (Fulbright graduate student)
- 1968年10月 同上 MA 取得
- 1969年 4月 東洋英和女学院短期大学 専任講師（米文学，英語）
- 1970年 1月 「菊田賞」（1969年度評論部門）受賞
- 1971年 4月 東洋英和女学院短期大学 助教授（米文学，英語）

- 1977年 4月 慶應義塾大学 助教授 (英語)
- 1981年 4月 同上 教授 (英語)
- 1983年 1~7月 Tisch School, New York University (Fulbright visiting scholar)
- 1994年度 文化庁芸術祭執行委員会 審査委員
- 1995年度 文化庁「移動芸術祭, こども芸術劇場及び青少年芸術劇場」企画委員
- 1996年度 同上
- 1997年度 同上
- 1997年度 文化庁派遣芸術家在外研究員及びインターシップ研修員選考委員
- 1998年度 同上
- 1999年度 同上
- 1998年度 芸術文化振興基金運営委員会専門委員会 委員
- 1999年度 同上
- 1999年度 文化庁「アーツプラン21」(芸術創造活性化事業) 審査委員会委員
- 2000年度 同上
- 1999年度 文化庁 平成11年度(第50回)芸術選奨 選考審査員
- 2000年度 同上
- 2000年 4月 慶應義塾大学 退任
- 2000年 4月 日本橋学館大学 教授

主要業績

(筆名〈斎藤偕子〉使用のものを含む)

著書(共著)

American Literature in the 1940's. Tokyo Chapter of the American

- Literature Society of Japan, 1976. (共著)
- American Literature in the 1950's*. Tokyo Chapter of the American Literature Society of Japan, 1977. (共著)
- The Traditional and the Anti-Traditional*. The Tokyo Chapter of the the American Literature Society of Japan, 1980. (共著)
- 『アメリカ文学を読む』(共著) 太陽社, 1981年。
- 『アメリカ文学読本』(共著) 有斐閣, 1982年。
- 『戦後アメリカ演劇の展開』(共著) 文英堂, 1983年。
- 『アメリカの文化』(共著) 弘文堂, 1992年。
- 『現代演劇101物語』(共著) 新書館, 1996年。
- Japanese Theatre in the World*. Japan Society, Inc. New York & The Japan Foundation, 1997. (共著)

学術論文, 評論

- 「Revolt の演劇」『新劇』1969年2月号。
- 「Revolt の演劇再論」『新劇』1969年6月号。
- 「シェックナーの環境演劇」『英語研究』1970年1月号。
- 「演劇の環境」『テアトロ』1970年6月号。
- 「ファッツ」『地下演劇』第3号, 1970年12月。
- 「紅テントの唐十郎」『テアトロ』1970年11月号。
- 「ゲリラ演劇 U. S. A.」『季刊同時代演劇』第4号, 1971年。
- 「演劇の聖域」^{サンクチュアリー}『テアトロ』1971年5月号。
- 「鎮魂の・秋浜悟史」『テアトロ』1971年11月号。
- 「今日の前衛演劇の方向」『新劇』1972年1月号。
- 「批評行為の虚と実」『新劇』1972年5月号。
- 「テネシー・ウィリアムズ考1——オルフェウスの系譜」『研究紀要』第11号, 東洋英和女学院短期大学, 1972年。
- 「演出家と舞台1——千田是也の『守銭奴』」『新劇』1973年7月号。

「演出家と舞台2——蜷川幸雄の『盲導犬』』『新劇』1973年8月号。

「演出家と舞台・番外——〈冥の会〉の『ゴドーを待ちながら』』『新劇』
1973年10月号。

「演出家と舞台3——唐十郎の『海の牙』』『新劇』1973年11月号。

「テネシー・ウィリアムズ考2——道化の役割』『研究紀要』第12号，東洋
英和女学院短期大学，1973年。

「テネシー・ウィリアムズ考3——地獄のユリーデスたち』『研究紀要』第
13号，東洋英和女学院短期大学，1974年。

「途方もない喜劇の主人公たち——40年代アメリカ・ポピュラー演劇』『研
究紀要』第14号，東洋英和女学院短期大学，1975年。

「ノースロップ・フライの批評方法論の示唆するもの——シェイクスピアの
喜劇とロマンスの場合』『あ・えむ・で，演劇論研究1』，1975年。

「現代演劇における道化の登場——テネシー・ウィリアムズ『カミノ・リア
ル』』『アメリカ文学32』，日本アメリカ文学会東京支部，1976年冬

「『民主主義』の道化師——つかこうへいの道化芝居の世界』『テアトロ』
1976年12月号。

「現代演劇における『独白』のドラマと『語り』のドラマ』『あ・えむ・で，
演劇論研究2』，1976年。

「『欲望という電車』の背景』『悲劇喜劇』1977年4月号。

「内的アクションのドラマ——カーソン・マッカーズ『結婚式のメン
バー』(劇)の場合』『研究紀要』第15号，東洋英和女学院短期大学，
1977年。

「現代メロドラマ試論——A・ミラー『セールスマンの死』の場合』『あ・
えむ・で，演劇論研究3』，1977年。

「体験的現代観客状況論』『テアトロ』1978年5月号。

「狂気と革命と演劇と・序論』『あ・えむ・で，演劇研究4』，1978年。

「演劇の中心——劇文学と舞台と世界の相関構造について』『あ・えむ・で，
演劇論研究5』，1979年。

- 「60年代アメリカ前衛演劇の先駆」『英語青年』XXVI/9, 1980年9月号。
- 「リビング・シアター（初期の歴史）」『あ・えむ・で、演劇論研究6』1980年。
- 「テネシー・ウィリアムズの小説の世界」『ストーン夫人のローマの春』（T. ウィリアムズ著，斎藤偕子訳），白水社，1981年。
- 「二大拠点〈ブロードウェイ〉の作家と観客」『テアトロ』1982年5月号。
- 「『ニコラス・ニクルビイ』物語，1～6」『テアトロ』，1982年～1983年。
- 「『周辺の劇場』夢想」『新劇』1985年11月号。
- 「オープン・シアター，I—V」『日吉紀要〈英語英米文学〉』No. 2，3，5，7，10，慶應義塾大学，1985-1988年。
- 「西部のドン・キホーテ——サム・シェパードの世界」『テアトロ』1986年9月号。
- 「日本におけるオニール劇の受容」『英語青年』XXXIV/8, 1988年8月号。
- 「アメリカ演劇の日本における翻訳と上演について：1960年から1989年までの変遷」『アメリカ研究資料センター年報』No. 14, 東京大学，1990年。
- 「カフェ・チーノ」『日吉紀要：言語・文化・コミュニケーション』No. 14, 慶應義塾大学，1994年。
- 「西洋戯曲と日本の伝統演劇俳優のコラボレーション」『コラボレーション：芸術の可能性』，慶應義塾大学アート・センター/ブックレット，01, 1995年。
- 「1960年代のラ・マーマ E. T. C.」『日吉紀要〈英語英米文学〉』No. 29, 慶應義塾大学，1995年。
- “Ways of Overcoming Language Barriers in the Theatre, and Who Are Its Audience?” *97 Theatre Symposium: Interculturalism in Theatre*, Korean Theatre Studies Association, 1997.
- “The Intercultural Structure: Tennessee Williams’ *A Streetcar Named Desire* and *Camino Real*” 『藝文研究』第七十三号，1997年。

「ガートルード・スタインと戦後のニューヨーク前衛演劇（1）——先駆リ
ヴィング・シアター」『藝文研究』第七十五号，1998年。

「‘パフォーマンス’研究の虚と実」『会報』No. 21，日本演劇学会・西洋
比較演劇研究会，1998年。

「アメリカ演劇とリアリズム？ ナチュラリズムを越えて」『シアター・
アーツ』第9号，1999年－I。

「ヘルプレス・ファーザーズ」『悲劇喜劇』1999年7月号。

「アーカイブ活動と『役者』資料」『資料・田辺コレクション／「役者」』，慶
應義塾大学アート・センター，1999年。

〈資料整備・調査による冊子作成〉

『慶應義塾における演劇および周辺芸術教育——現状と将来への展望』「文
化財としての上演芸術の今日的課題」研究プロジェクト，1994年。

『資料・田辺コレクション／「役者」』慶應義塾大学アート・センター，1999
年。

〈その他演劇批評家としての継続的活動〉

「年間アメリカ演劇報告」『国際演劇年間』，国際演劇協会・日本センター，
1984年以降。

月刊雑誌一年間回顧，舞台評，時評，論文，書評など担当『テアトロ』
1990年以降。

〈口頭発表〉

「現代演劇における道化の役割」，日本アメリカ文学会東京支部例会，1976
年1月。

「現代演劇における‘ナラティブ’」，日本アメリカ文学会東京支部例会，
1977年11月。

「オフ・ブロードウェイ時代のリヴィング・シアター——オフ・オフの萌
芽」，日本英文学会第52回大会，1980年5月。

「ニューヨーク前衛演劇とガートルード・スタイン」，日本英文学会第67回
大会，1995年，5月。

“New Ways of looking at the Theatre Crossroads” The International Colloquium of Theatre Studies, '97 (Japan Society for Theatre Researches), 1997.

“Ways of Overcoming Language Barriers in the Theatre, and Who Are Its Audience?” 97Seoul International Theatre Symposium (Korean Theatre Studies Association), 1997.

翻 訳

アーサー・コーピット「ああ、父さん、可哀そうな父さん、母さんが父さんを洋服ダンスの中に吊ってるんだものね、ほく悲しいよ」『現代演劇・2』, 南雲堂, 1967年。

アーサー・コーピット「娼婦がテニスをしに来る日」『今日の米英演劇・4』, 白水社, 1968年。

マイケル・スミス「オフ・オフ・ブロードウェイの夜明け」

フランク・オハラ「將軍帰る」

ランフォード・ウィルソン「レディ・ブライトの狂気」

以上三作品『現代アメリカ戯曲選集1』, 竹内書店, 1969年。

リヴィング・シアター「パラダイス・ナウ」『現代世界演劇17』, 白水社, 1972年。

テネシー・ウィリアムズ『ストーン夫人のローマの春』, 白水社, 1981年。

アーサー・コーピット「ああ父さん、かわいそうな父さん、母さんがあなたを洋服ダンスの中にぶら下げてるのだものね、ほくほんとに悲しいよ」(改訳)『米国ゴシック作品集』, 国書刊行会, 1982年。

ジャン・クロード・ヴァン＝イタリー「バッグ・レディ——袋を持ち歩く女」『あ・えむ・で, 演劇論研究9』, 1983年。

ジョウゼフ・チャイキン「俳優の存在感——オープン・シアターと、扮装するということと、演技するということ、抑制するということについてのノート」1～7, 『テアトロ』, 1984～1985年。

クリストファー・イネス『アバンギャルド・シアター』（監修・共訳），テ
アトロ社，1997年。